

株式会社友善商事 健康経営の取り組み

創業50年から次の発展へ



健康経営優良法人
Health and productivity

令和5年3月

株式会社友善商事

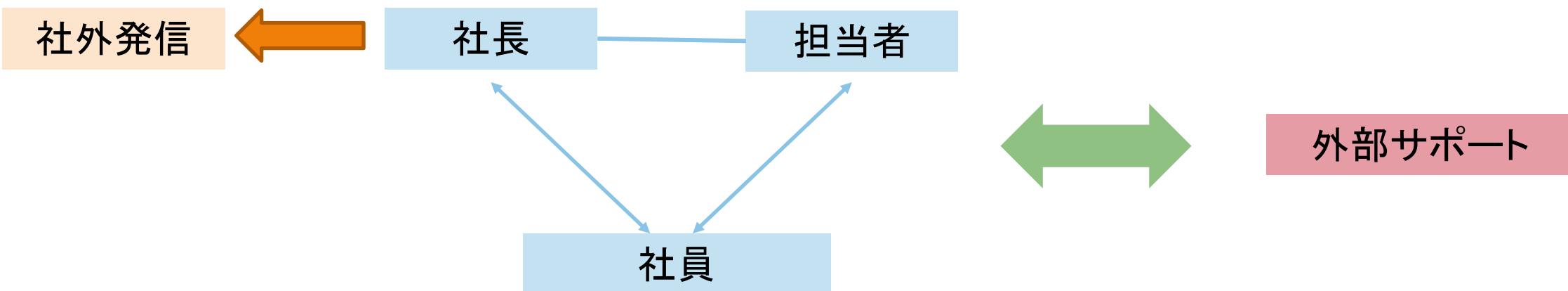
代表取締役 小笠原 博美

健康経営の取り組みの背景

- 創業後6年で創業者(父)ががんで他界。その後を引き継いだ2代目社長(母)が苦勞して会社を發展させ、新社屋や第二倉庫を落成させるまで擴張した。
- 2010年に私が事業を承継したが、父の無念や母の苦勞は健康であることの重要さを教えてくれた。
- 社員が明るく笑顔で働いてくれることが、会社にとっての財産であり、会社の發展には絶対に必要不可欠。また、社員にもしものことがあったらその家族は母と同じ苦勞をすることになる。
- 創業50年の節目で優良法人認定を獲得できた。

外部サポートと担当者の選定

- 以前知り合いの会社が優良法人を認定されたと知り、無料の外部サポートを活用したと教えてくれた。
- 外部サポートだけでは不十分なので担当者を選任し、社内発信や社外発信は社長、事務的なことは総務の担当者に任せる体制にした。



取り組み内容①

- 朝礼前のラジオ体操
- 健康診断100%受診
- 永続勤務の社員を対象にした脳ドックの受診
- 受動喫煙対策
- インフルエンザ予防接種の費用の補助
- Web会議システムの導入（コロナ感染予防）
- 感染予防に取り組みながらコミュニケーションを図る
- 健康習慣アンケートを行い、課題を抽出し、次の改善に取り組む

取り組み内容②

【職場ストレス軽減の取り組み】



久しぶりの忘年会



社員共同でゴミ拾い

【仕事中の災害対応の取り組み】



全車両に防災セット



事務所内の全員に防災セット

健康習慣アンケートで見えたこと

- 朝食を食べていない社員がいる
- 飲酒はたしなむ程度の社員が多い（量を記録している社員がいた！）
- 健康は重要と考えている社員がとても多い

社員の家庭内の食生活は会社ではわからなかった。
アンケートを通じて、家庭での健康習慣を知ることができた。

「会社は自分の健康を見ている」と受け止める社員も出てきた。

こんな効果も

採用広告に社員が登場

＜応募者にとって＞

社員の表情などから安心感を得られ、応募の動機付けになる

＜社員にとって＞

明るい笑顔で登場し、会社の代表となったとの満足度が向上
いつまでもこの会社で働き続けたいと思うように



これからの取り組み

- 健康習慣アンケートを毎年行い、経年の変化をみる
- 社員に報いるために福利厚生制度を充実させる
- 社員の家族も健康意識を高めてもらい、家族から感謝される会社になる

<利用度を高めたい福利厚生健康増進メニュー>

■ 24時間電話健康相談

社員の家族も利用できる

■ メンタルサポート

社員のストレスを和らげる

ありがとうございました

